

Q11 学校支援ボランティアコーディネーターの役割と内容は、どのようなものがあるか。また、コーディネーターの配置はどのようにしたらよいか。

A： 学校でのボランティア活動を進めるためには、ボランティアと学校の抱える悩みや課題を理解し、お互いの「思い」や「願い」を生かしながら、対等な関係で活動を支えあうことが大切である。

コーディネーターとは、ボランティア活動をしたい人とボランティアの協力を得たいと考えている学校との間に立ち、両者を結びつけるだけでなく、学校と地域の人々が協働で行う教育活動が円滑に進められるために連絡調整をする役割を担う人のことである。学校支援ボランティアの活動をより活発なものにするためにも、各学校においてコーディネーターの配置が望まれる。

以下、学校支援ボランティア活動の意義、学校支援ボランティアコーディネーターの役割と内容を簡単にまとめてみる。

【学校支援ボランティア活動の意義】

(1) 子ども・教員・学校を変える

- ・実践を始めた学校からは、「最初はたいへんそうな気がしたが、実際にボランティアの協力を得てみると、子どもたちにとっても教員にとっても本当によかった」という声がよく聞かれる。
- ・児童生徒の「自主性・主体性」「思いやりや感謝の心」をはぐくみ、ボランティアとのコミュニケーションが教員の変容にも大きな影響を与えている。
- ・ボランティアが学校のしくみや制度をよく理解し、児童生徒の様子を知ることによって、学校と地域の良好な関係づくりに大きな役割を果たしている。

(2) 地域住民・まちを変える

- ・地域住民自らが「教育力」であること、そして、子どもたちの健全な発達のためには、より良い環境、よりよい地域社会が必要であることに気づいていく。
- ・安全で暮らしやすく、健全な子どもが育つ地域に変えていこうとする地域の大人たちの意思が、まちづくりの営みへとつながっていく。
- ・子どもたちの教育に積極的に責任を果たしていこうとすることは、地域の住民として、地域の未来を担う人材を育てるという夢のある活動でもあり、学校支援ボランティアの活動は、未来のまちづくりにもつながっていくものである。
- ・よりよい学校づくりには、よりよい地域が存在することが不可欠である。開かれた学校づくりは、地域教育力を再構築する可能性を包含している。。

教育基本法第13条に規定された「学校・家庭及び地域住民等の相互の連携協力の推進」は、子どもたちの教育は学校だけではなく、家庭・地域住民等といった多様な教育力によって担われることを示している。学校支援ボランティア活動は、それらの連携協力を実践する有効で具体的な活動のひとつである。

【学校支援ボランティアコーディネーターの役割と内容】

(1) 学校とボランティアをつなぐ

学校のニーズとボランティアの意思、提案を調整し、実際の活動につながるように調整する。ボランティアバンクづくりや人材紹介などを行う。教育委員会生涯学習主管課や各種機関と情報交換をしながら進めると効果的である。

(2) お互いの情報を知らせる

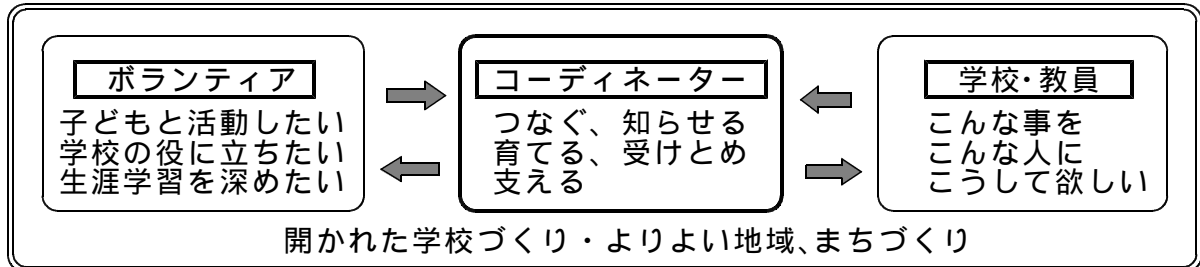
学校のニーズや学校の情報をボランティアへ、ボランティアの意思や提案や人材の情報を学校へ知らせる。学校だよりや学年通信、PTAだよりなど記事を掲載して、活動の様子を広報する。

(3) ボランティアを育て、教員の理解を得る

ボランティア活動が円滑に進むよう、ボランティアに学校のしくみや子どもの実態などを学ぶ機会を提供したり、教員に対してはボランティアや地域社会についての研修を提供する。時には、両者一緒に研修する機会も必要である。

(4) お互いの思いや願いを受けとめ、支える

「ボランティア活動をしたい」という地域住民の思いや、「ボランティアの協力がほしい」という学校のニーズを受けとめる。また、ボランティアや教員の戸惑いや悩み、トラブル等に対して、相談を受け両者へアドバイスをする。



【学校支援ボランティアコーディネーターの配置】

教員がなる場合

学校の規模に応じて、管理職や生涯学習係、社会教育主事有資格者などがその役割を担う場合がある。

児童生徒の実態や守秘義務、人権への配慮など、学校のルールを細かく伝えることができる。

ボランティアがなる場合

すでに活動経験のあるボランティアは、地域やボランティアのネットワークをもち信頼できるコーディネーターとして活躍することができる。また、学校の実態や要望も理解しているので、両者にアドバイスができる。

P T A 役員や保護者がなる場合

P T A の活動として学校支援ボランティアに取り組むことは、学校とのコミュニケーションも円滑に展開できるものと考えられ、コーディネーターとして効果的な活動ができる。

P T A 活動の一環として学校支援ボランティア活動に取り組んでいる学校も多い。

組織で担う場合

教育委員会や公民館、自治会の役員、N P O などによって構成された地域ぐるみの組織によるコーディネーションの形をとる場合もある。(学校支援地域本部事業など) また、定期的に公民館等が主催して、学校とボランティアの連絡調整会議を開催している地域もある。

「コーディネーター」から「コーディネーターズ」へ
学校支援ボランティアのコーディネートは複数の人たちが協力し、グループで行うとより効果的である。上記の人たちが、それぞれの特性を生かしてコーディネートすると、学校・ボランティア・地域等のそれぞれの立場での調整ができる。具体的には、学校内外にコーディネーターがいることが理想である。

芳賀教育事務所では、学校支援ボランティアコーディネーター研修会を開催し、管内全小・中学校へのコーディネーターの配置を目指して、その養成研修を実施(年3回)している。ぜひ、教職員、保護者、地域の方等の積極的な参加を奨励していただきたい。

【参考資料】

- ・「さあ、はじめよう、学校支援ボランティア!!」H16.9 県教委生涯学習課
- ・「地域と学校をつなぐ」H18 宇都宮大学生涯学習教育研究センター
- ・「地域と学校がつながるために～栃木県の実践から」H19.7 宇都宮大学生涯学習教育研究センター